ぜんせき THE ZENSEKI

第7778号　月・水・金発行（祝日除く）　組合員 月1,728円 組合員外 月1,944円（消費税込）

1月29日（月曜日）　2018年（平成30年）

発行所
全国石油商業組合連合会
東京都千代田区永田町2-17-14
電話 03-3593-5751
http://www.zensekiren.or.jp
昭和38年7月1日第3種郵便物認可 振替口座00130-4-52707

ぜんせきweb版　登録受付け中！
新規のご登録の手続きは
下記ウェブサイトでできます
http://zensekiweb.com

論説

現有スタッフでリスクに挑む

SSにおける人手不足が深刻化する中、収益に直結する日常業務以上にスタッフが気にかけなければならないのが、リスク管理の問題だ。十分な人手が確保できない中で、SS店頭に存在する様々なリスクとそれに起因するトラブルにどう対応するか。今後のSS経営にとっても重篤な課題となりつつある。

SS店頭にはほかの小売業とは比較にならないほど、多様なリスクが存在する。洗車に際しての車体へのキズクレームなどはその代表格だが、ほかにもキャップの閉め忘れやガソリンと軽油の誤給油など、基本作業だけでも即座に多くの事例が思い浮かぶ。

ガソリンが混入した灯油を複数の顧客に販売した昨年末のセルフSSでのコンタミ事故なども、典型例の1つだ。全量が回収され大事には至らなかったが、火災など重大事故につながる危険性もあった。荷卸し時にSS側の立ち会いがなかったことが指摘され、リスク管理を怠った一例ともいえる。

一方で、今後多発する可能性が懸念されるのがクレジットカードによるトラブルだ。偽造カードの温床となるとの指摘すらある。店頭対応が甘いと判断されれば、そのSSが狙い撃ちにされる危険性もある。

荷卸し作業における立ち会いにしろ店頭での決済対応にしろ、人手不足が深刻化する昨今の環境下ではついついおろそかになりがちだが、一方は処罰の対象となる可能性をはらんでいるし、他方は犯罪に巻き込まれる可能性がある。発生すれば店の信用にもかかわりかねない。

リスク管理の観点から考えると、少ないスタッフで店頭対応することで現場の注意力が落ちれば、トラブル発生の可能性は倍加する。少ないスタッフでトラブルを抑制するためには、現有スタッフが通常以上の注意力を発揮しなければならない。それはおそらく、想像以上の疲労を伴うことになるだろう。

人手不足が深刻化するいま、現有スタッフにいかに大きな負担がかかっているかということだ。人材確保に取り組むことはもちろん重要だが、日常業務とともに日々黙々とリスク管理にも取り組む現有スタッフに報いることも、SS業界にとって重要な使命といえる。

ガソリン18年度1.5%減

今年度1.7%減、軽油堅調続く

エネ研短期需要見通し

日本エネルギー経済研究所が先ごろ発表した石油製品の短期需要見通しによると、2017年度の内需は、ナフサの増加、輸送需要の増加に伴うジェット燃料・軽油増、寒冬による灯油増の一方で、ガソリンやA重油、電力用C重油などの減少が響き、前年度に比べ0・9%減の1億7540万㌔㍑に落ち込むと予測した。18年度も原発の再稼働に伴う電力用C重油の減少に加え、燃料転換などによる灯油、A重油の減少、ガソリンの需要減によって2・3%減の1億7140万㌔㍑と、燃料油需要のピークだった1996年度の7割を下回る水準にまで需要減が顕在化すると見通した。

油種別にみると、ガソリンは17年度が少子高齢化の進展や若者のクルマ離れによる走行距離の減少に加え、低燃費車のさらなる普及・拡大などにより1・7%減の5160万㌔㍑。18年度も1・5%減の5080万㌔㍑に減少する。

灯油は17年度が都市ガス、電力への燃料転換が進む一方、前年度よりも寒い冬が需要増に寄与して0・3%増の1630万㌔㍑と微増。18年度は燃料転換の継続と前年度の寒冬の反動で2・0%減の1600万㌔㍑に落ち込む。

軽油は17年度が貨物の輸送効率化や燃費改善が進展するものの、経済活動の回復に伴う生産活動やネット通販の拡大などで荷動きが活発となり、1・1%増の3370万㌔㍑とした。18年度は保有台数の増加がプラスに寄与するほか、荷動きの活発化で0・4%増の3380万㌔㍑の小幅増となる。

A重油は17年度が原油価格の再上昇による燃料転換などによって4・0%減の1150万㌔㍑。18年度は原油価格の再上昇による電気・都市ガスへの燃料転換などが進み、2・7%減の1120万㌔㍑に減少するとした。

油種別販売量見通し
（単位：百万㌔㍑、カッコ内は前年度増減率%）

年度	16年度実績	17年度	18年度
ガソリン	52.5(▲1.2)	51.6(▲1.7)	50.8(▲1.5)
灯油	16.2(1.8)	16.3(0.3)	16.0(▲2.0)
軽油	33.3(▲0.8)	33.7(1.1)	33.8(0.4)
A重油	12.0(1.0)	11.5(▲4.0)	11.2(▲2.7)
C重油	12.8(▲10.3)	10.9(▲15.0)	9.3(▲14.2)
燃料油計	176.9(▲2.0)	175.4(▲0.9)	171.4(▲2.3)

新車17年 乗用5.8%増販439万台

EVシェア 登録車の0.6%

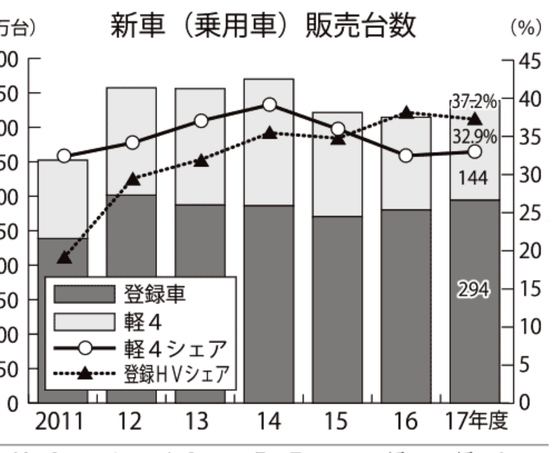
日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合が集計した2017年通期における乗用車の新車販売台数は、前年比で登録車が5・1%増の294万3台(2年連続増)、軽4輪が7・3%増の144・3万台（3年ぶり増）、合計5・8%増の438・6万台と回復した。

登録車をパワートレーン別にみると、HVは2・7%増の109・6万台と2年連続で100万台を突破、PHVは新型プリウス効果で3・8倍の3・6万台(シェア1・2%)、EVは17・2%増の1・8万台（0・6%）、FCVは19・6%減の848台。

これに対してガソリン車は4・5%増の162・3万台（55・2%）、ディーゼル車は9・6%増の15・6万台（5・3%）となった。また、軽HVは38・9P低下の37・2%、軽が4・5P上昇の20・1%）で、〝低燃費〟車の増勢が続いている。

他方、登録車に占める外国メーカー車は3・7%増の30・5万台（2年ぶり増）だった。5年ぶりで30万台を超え、販売比率は0・1P低下の10・4%（軽を含めると0・1P低下の7・0%）と堅調に推移した。

なお、トラックなどを含めた登録車と軽4輪合計は5・3%増の523・4万台で、2年ぶりに500万台を突破した。



灯油供給「万全期す」

木村石連会長会見

石油連盟の木村康会長は25日の定例記者会見で、22日に関東広域を襲った大雪や、強い寒波によって北陸・北日本地域などが大雪・猛吹雪に見舞われている今シーズンの灯油需給の現状について「昨年12月が前年比9%増、1月がこれまでのところ2%増となっている。現在の寒さを考えると、今後さらに需要の伸びが強くなっていくのではないか」との見通しを示した。

そのうえで「厳しい天候においても、石油元売各社は安定供給に努めていく」と述べるとともに、「灯油在庫は前年を下回る状況だが、柔軟な生産体制に加え、製品輸入を含めた機動的な対応による。引き続いて堅調だが、為替がドル安・円高の傾向であったため、円建ての原油コストは上昇を回避した格好。26日の東商取プラッツ・ドバイ原油はドル建てで前日比0・40ドル安の66・62ドル、円建ては0・2円安の46円。

一方、国内ガソリン陸上スポットは先週のじり安に歯止めがかかり、今週は2月へと月替わりすることも踏まえ、引き締まり感が出るかに注目が集まる。また、首都圏の大雪影響で混乱した配送は一層タイト化が進んでいる模様。26日のトコムウインドウ・ガソリン陸上は前日比0・5円安の115・7円。

◇　◇

特約店筋によると、コスモ石油マーケティングは26日からの週決め仕切りを前週比全油種据え置きとした。

原油コストほぼ横ばい

今週の卸価格に影響する中東産原油の円建て週間コストは前週比0・02円安となりほぼ横ばい。原油相場は部では長年にわたり石油供給を続けている方々がいることに十分な配慮が必要」と理解を求め、時代の流れであるCO2排出削減への協力は惜しまないとも言及。

そのうえで、このような報道には「大変に心が痛む」と指摘し、出席者からも「もうSSは辞めたほうがいい」「都の真意がユーザーに伝わるよう、しっかりと対応してほしい」などの要望が相次いだ。

続いて小池顧問は「エネルギー問題は現実的な対応が不可欠。災害時、防犯・防火を含め、中小SSの存在は非常に重要だ。環境の前に生活がある。東京が間違ったシグナルを発信したら、他地域にも波及しかねない」と強く抗議。さらに「東日本大震災で活躍したのは都石商。行政として、懸念される首都直下地震にどう対応するのか」と問題提起した。

最後に谷口会長は「組合員SSは激減したが、まだ歯止めがかからない。自民党石油政策研として、この問題を取り上げてほしい」と要請。これを受けて小倉顧問は「早急に政調会と政策研での検討を働きかけたい」と応じた。

石油販売業界として、東京都の環境政策方針を質した

東京油政連

報道で〝脱ガソリン車〟

都環境局に政策方針質す

東京都石油政治連盟（谷口寿亜会長）はこのほど、都環境局の松永竜太環境改善部長らを招き、読売新聞が今月6日付で「都、脱ガソリン車へ」などの見出しを掲げて報道したことを受け、都としての考えや政策方針を質した。

会合には同油政連の正副会長と小磯明顧問（前都議会自民党石油政策研究会会長）、東京石商の矢島幹也理事長が出席。その中で松永局長は、小池百合子知事が取材に対し「40年代にはガソリン車を購入しなくてよい環境を整えたい」としたことが発端で、「見出しはセンセーショナル。現状の方針や予算を説明したい」と前置きしつつ、2018年度予算要求で『ゼロエミッション東京』の実現に向け①ZEV（CO2排出ゼロ車）普及に向けた調査②ZEI実現に向けたEV普及などのための調査）をはじめ、集合住宅におけるEV充電設備導入促進事業などを計画していることを説明。「特に①では産業への影響、税金、海外動向などを調査する」との考えを示した。

これに対し、全石連次世代部会長も務める矢島理事長は「平素から都民への石油の安定供給に努め、軽油引取税430億円を徴収し、まして災害時には緊急車両・施設への優先供給のために様々な準備を行い、帰宅困難者を支援するなど、我々の生業に自負を持っている」「経産省によれば、英仏などもEV推進のための具体的な中身には言及していない。また、国の普及目標との整合性も取ってほしい。一方、島しょ部では長年にわたり石油供給を続けている方々がいることに十分な配慮が必要」と理解を求め、時代の流れであるCO2排出削減への協力は惜しまないとも言及。

そのうえで、このような報道には「大変に心が痛む」と指摘し、出席者からも「もうSSは辞めたほうがいい」「都の真意がユーザーに伝わるよう、しっかりと対応してほしい」などの要望が相次いだ。

続いて小磯顧問は「エネルギー問題は現実的な対応が不可欠。災害時、防犯・防火を含め、中小SSの存在は非常に重要だ。環境の前に生活がある。東京が間違ったシグナルを発信したら、他地域にも波及しかねない」と強く抗議。さらに「東日本大震災で活躍したのは都石商。行政として、懸念される首都直下地震にどう対応するのか」と問題提起した。

最後に谷口会長は「組合員SSは激減したが、まだ歯止めがかからない。自民党石油政策研として、この問題を取り上げてほしい」と要請。これを受けて小磯顧問は「早急に政調会と政策研での検討を働きかけたい」と応じた。

次期理事長に増尾氏を内定

奈良石商・奈良協（松本安司理事長）

【奈良】奈良石商協（松本安司理事長）は25日、奈良市内で理事会を開き、役員選考準備委員会で協議した結果として次期理事長に増尾朋副理事長（奈良自動車学校社長・JXTG系＝写真）を推薦することを報告した。これにより増尾氏の次期理事長就任が内定した。

きょうの紙面
2面　各地区新年賀詞交歓会
■DATAコーナー＝原油価格、石油製品先物情報
3面　関東版・一部量販SS安値散見/大阪版・業転格差縮小で安定感
4面　webアンケート／入札概況

ポンプあいらんど

▼石連が行っている小学生の作文コンクールで、実家がSSの少年の作品が入賞した。中小企業の後継者難が叫ばれる中「次世代石油スタンドの店長になるぞ」と、家族や従業員の接客する姿を見て家業を継ぐ決意を固くする内容が綴られている。石油が環境破壊につながるのでは、といった感情との板挟みにあいながら、地球に優しい石油を作って、次世代SSの店長を夢見るというものだ▼中企庁のまとめによると、中小・小規模事業者では経営者の高齢化が進んでおり、平均年齢は60才を超えピークは66才とある。後継者不在で黒字廃業を余儀なくされる事例も耳にするなど、後継者問題に早めに取りかかることが事業継続の重要なポイントといえる。親族、第三者にかかわらず事業承継を志すものが明確な将来ビジョンを描けるかでスムーズなバトンタッチの成否が分かれる▼全国に張り巡らされたSSネットワークは地域住民の安心安全な生活を支える重要インフラであり、その維持は最優先課題だ。そのような中、黒字廃業によってネットワークが欠落するようなことがあってはならない▼10年後、作品の少年が立派な青年となって家業に携わっているころも、まだ石油がエネルギーの主流であろう。その先の次世代SSビジョンをいまから描きながら、地域に愛される店長を目指してほしい。

週仕切り指標のコスト変動と推計値（＊原油＝価格適用期間のFOB平均値）　（円／L）

適用期間	原油	ガソリン			灯油		軽油		A重油
土～金曜		指標	系列卸	TOCOM	指標	TOCOM	指標	TOCOM	指標
1／1週	1.30	0.3	0.0	1.1	0.3	1.6	0.5	1.2	0.4
2週	1.27	1.1	0.0	0.1	1.1	0.4	0.5	0.0	1.1
3週	0.27	1.5	2.0	0.7	1.5	0.7	1.6	0.0	1.6
4週	▲0.18	0.7	0.5	0.1	0.9	1.8	0.8	0.0	1.0
前週実勢値	46.93	116.0	114.3	114.5	64.4	65.9	62.0	60.0	60.0
前週標準仕切り推計	---	121.8	119.4	117.0	70.2	68.4	67.8	62.5	65.8
2／1週	▲0.02	▲0.5	0.0	▲0.0	0.0	▲1.2	▲0.1	0.0	▲0.1
当週実勢値予測	46.91	115.5	114.3	114.4	64.4	64.8	61.9	60.0	60.0
最近値	46.96	118.2	114.3	114.4	64.4	64.8	61.5	60.0	59.7

鳥居丸紅常務が丸エネ新社長へ

丸紅は4月1日付の人事で、鳥居敬三常務執行役員（中国総代表・丸紅中国会社社長）を丸紅エネルギー社長とすることを決めた。

鳥居氏は一橋大学卒。1957年3月生まれ。79年丸紅入社、04年LNG部長、06年ガス事業開発部長、07年エネルギー部門長補佐兼ガス事業開発部長などを歴任していた。

各地区新年賀詞交歓会　結束こそ力〟

千葉　組合員サービス充実

【千葉】千葉石商・協（安藤順夫理事長）は24日、千葉市内で新年会を開き、自民党石油流通問題議員連盟の桜田義孝議員、全石連の坂井信常務理事、組合員をはじめ多数が参加し、新春のスタートを祝った。

安藤理事長（写真）は「昨年はＪＸＴＧ統合をはじめ、元売再編が進んだ。千葉にはコストコも進出し、経営環境は厳しさを増している。今年は組合員へのサービス提供を充実させていきたい。独自に経営にお役に立つ共同事業を取り上げていく」と年頭の所感を述べた。

来賓では桜田議員、佐野彰自民党千葉県会議員、坂井常務があいさつした。

埼玉　組合員支える活動で

【さいたま】埼玉石商・協（内藤英一理事長）、埼玉県石油政治連盟（有泉勝之会長）は25日、さいたま市内で賀詞交歓会を開催した。

会場には自民党石油流通問題議員連盟の山口泰明幹事長代理、古川俊治議員、全石連の渡辺勝英事務局長をはじめ、元売、組合員など約90人が参集し、盛大に組織の一層の団結を誓った。

三重　ＳＳ維持に協業必須

【津】三重石商・協（亀井喜久雄理事長）の「新年賀詞交歓会」が23日、津市内で開かれた。

冒頭で亀井理事長（写真）は「自動車メーカーは将来的にＨＶやＰＨＶをしのぐ環境汚染の全くないゼロエミッション車に切り替えていく動きを見せており、ガソリンなどの需要はかなりのスピードで落ち込むと考えられる。加えて地方の人口減は深刻で、今年生まれた子どもが大学生になる2040年には三重県の場合、現在の185万人から150万人へと2割減少。それも老人比率ばかりが高まる人口構成になっていく。エネ庁はガソリン需要が毎年2％減と見込んでいるが、首都圏などを含めた全国平均で、本県では3％減、さらに伊賀地方など内陸部では4％減とみたほうがいい」と分析。

そのうえで「意欲を持ってＳＳを新設しようにも、投資額を回収できるだけの時間はないままＥＶへと移ってしまうだろう。我々は競争ではなく協業の時代を迎えている。近隣同業者と力を合わせ、従業員の雇用を守り、お客様に迷惑をかけずに事業を継続し、エネルギーインフラを守り抜いてほしい」と訴えた。

石川　再投資可能な口銭を

【金沢】石川石商・協（吉岡英一郎理事長）は24日、金沢市内で賀詞交歓を兼ねた「新年役員会」を開き、結束して組合活動を展開していくことを確認した。

冒頭あいさつで吉岡理事長（写真）は「元売再編で業転玉と系列との価格差もほとんどなくなり、我々にとって真の商売ができる土俵が作られた。いまこそ再投資可能なマージン確保の経営に徹することが大事で、これに尽きるのではないか。昨年来話題となっているＥＶは着実に普及していくだろう。ＳＳ業界のゴールも定まってきたとの見方もあるだろうが、それまでまだ十分な時間はある。しっかりと利益を上げ、お客様に還元すると同時に、従業員が幸せになれるような施策を講じて次世代に備えよう」と訴えた。さらに「今年は戌年。私の好きな子犬はキャンキャン吠える。キャンは〝ＣＡＮ〟、やればできる年だと信じて、頑張っていこう」と呼びかけた。

ソーラーＦと高効率太陽電池

NEDO　新エネルギー・産業技術総合開発機構（ＮＥＤＯ）と昭和シェル石油子会社・ソーラーフロンティアは先ごろ、ＣＩＳ系薄膜太陽電池セルで世界最高変換効率となる22・9％を達成したと発表した。

高性能・高信頼の太陽光発電の発電コスト低減技術開発を目指し、ＣＩＳ光吸収層の改良や表面処理の改善などの技術により達成したもので、2017年1月に同社が達成した最高記録21・7％を1・2ポイント更新し、これまでに計測されたすべてのセルサイズの中で世界最高の効率となった。今後も、ＮＥＤＯの発電コスト目標「20年にはＫＷ時14円、30年には7円」に向け、さらなる変換効率向上や製造コスト低減などの技術開発に取り組むとする。

近畿支部　商売の道探る1年に

【大阪】全石連近畿支部（西尾恒太支部長）と全国石油政治連盟近畿支部（中村彰一郎支部長）は23日、大阪市内において新年賀詞交歓会を開催した。

会場に全石連の加藤文彦副会長・専務理事、近畿経済産業局の石垣宏毅資源エネルギー部長、在阪元売支店長ら多数の来賓が出席する中、盛大に新春のスタートを切った。

西尾支部長は「ガソリンだけで食べていけるとはだれも思っていない。需要が減っていくのは目に見えており、しかも自動車のメンテナンスだけに頼ってはいけない。新たな商売のモデルをＳＳから見つけていくべき。経営環境は同じ土俵で相撲が取れる状況になりつつある。今年は戌年で、犬も歩けば棒に当たるという例えがあるようにあちこちにぶつかりながら商売の道を探る1年にしてほしい」と所信を述べた。

ｅコマース事業幅広い支持得て

三菱エネ　三菱商事エネルギーは22日、都内のホテルで新年賀詞交歓会を開き、北海道、東北、関東、首都圏の各支店管内から90社超の特約店経営者が参加した。

懇親会のあいさつで鎌倉上社長（写真）は「昨年を一言で表現すると〝明るく良い方向へ変化した1年〟と感じる。元売再編が具体的に前進し、エネルギー供給構造高度化法2次告示に対応して需給環境が改善に向かい、元売を中心に業界全体が健全化に向けて歩み始めた。今年も予想しない変化が起こる可能性が十分にある中、大切なのは変化をしっかりと受け止め、柔軟かつ適切に対応していくことだ。エネルギーのボーダーレス化や自動運転・ＥＶなど技術進化が止まることはない。親会社の三菱商事と連携を密に新エネルギー・次世代自動車などの情報を幅広く収集し、特約店の方々といち早く共有させていただき、一緒に新時代に対応していきたい」と強調。そのうえで「一次告示に対応して需給環境が改善に向かい、元売を中心に業界全体が健全化に向けて歩み始めた。今年も予想しない変化が起こる可能性が十分にある中、大切なのは変化をしっかりと受け止め、柔軟かつ適切に対応していくことだ。エネルギーのボーダーレス化や自動運転・ＥＶなど技術進化が止まることはない。親会社の三菱商事と連携を密に新エネルギー・次世代自動車などの情報を幅広く収集し、特約店の方々といち早く共有させていただき、一緒に新時代に対応していきたい」と強調。そのうえで「一昨年に立ち上げたｅコマース事業は幅広い支持をいただいている。今後もさらなる競争力強化や収益拡大に向けて、事業を推進していく。皆様の抱える課題をしっかり共有させていただき、解決に向けて汗をかき、行動・実行していく」と述べた。

次世代カーケアニーズ取り込む

三愛　三愛石油は先ごろ、都内のホテルで特約店会議および新年賀詞交歓会を開き、特約店を上昇しており、こうしたユーザーニーズにしっかりと対応することが求められている。ＳＳは地域のライフラインを支える重要なインフラ。三愛は小売りの現場でリテールを学んだ社員が特約店の皆様を支援する担当窓口を務めていることが強みだ」と述べた。

また、年頭方針『共走共感2018 魅力ある小売り店舗～次世代カーケアニーズへの適応～』について、大久保宏次取締役石油事業部長が「変化に対応して魅力ある店舗を小売業界全体を見据えながら作っていきたい。ＨＶ、軽自動車、女性をターゲットにした次世代カーケアニーズを取り込むことにこだわり頑張りたい。車のメーカーはＨＶやＰＨＶをしのぐ環境汚染の全くないゼロエミッション車に切り替えていく動きを見せており、ガソリンなどの需要はかなりのスピードで落ち込むと考えられる。加えて地方の人口減は深刻で、今年生まれた子どもが大学生になる2040年には三重県の場合、現在の185万人から150万人へと2割減少。それも老人比率ばかりが高まる人口構成になっていく。エネ庁はガソリン需要が毎年2％減と見込んでいるが、首都圏などを含めた全国平均で、本県では3％減、さらに伊賀地方など内陸部では4％減とみたほうがいい」と分析。

そのうえで「意欲を持ってＳＳを新設しようにも、投資額を回収できるだけの時間はないままＥＶへと移ってしまうだろう。我々は競争ではなく協業の時代を迎えている。近隣同業者と力を合わせ、従業員の雇用を守り、お客様に迷惑をかけずに事業を継続し、エネルギーインフラを守り抜いてほしい」と訴えた。

ＪＸＴＧ統合完了の象徴　旧ＴＧ系販売業者「エネジェット」期待と不安

子会社エクスプレスで新設

ＪＸＴＧエネルギーが先ごろ発表した「エネジェット」を既存のエクスプレスの後継ブランドにすることに、関東各地の旧ＴＧ系業者は「正直、これで本当にＪＸＴＧになると実感する」と、期待と不安をにじませている。また、一部地域ではいまだに子会社がエクスプレス仕様のＳＳを新設する計画があり、周辺業者は「間もなくエネジェットになるのに効率的ではない」と首をかしげている。

エクスプレスマークに対する旧ＴＧ業者の思い入れは深い。最新ＳＳモデルとの自負や、セブン－イレブンとの併設などＳＳの多様化を実現したカラーリングとして受け入れられてきた。一方で、子会社・中央石油販売の主力ＳＳとして、量販ＳＳの象徴と見られてきた経緯もあり、エクスプレスと量販ＳＳのイメージを重ねる声も出ている。

だが、ＪＸＴＧとなり中央石油販売の販売姿勢全般が質への転換を進める中、「エクスプレス仕様のＳＳも販売戦略の見直しに迫られていた」とみる業者もいる。今年10月以降、「エネジェット」仕様へ転換することで、さらにエネオス色が強まるとみる業者からは「これで本当の意味で統合が完結する」との声も出ている。

一方、市場ではいまだにエクスプレス仕様のＳＳが新設され「すぐエネジェットになるのに違和感を感じる」と話す業者もあり、「ＪＸＴＧエネは相当エクスプレス仕様からの転換に資金を費やすことになるのでは」とコスト面の負担を懸念する業者も多い。

コストコ東北2店　Ｇともに130円台へ

【仙台】宮城県富谷市のコストコ富谷倉庫店は23日からガソリン価格を1円値上げし、レギュラー130円、ハイオク140円とした。灯油も1円上げて76円。

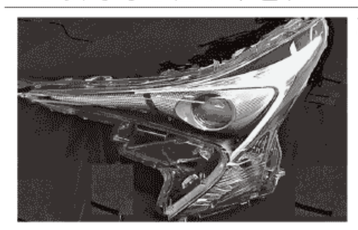
また、山形県上山市のコストコかみのやま倉庫店も同日、灯油を1円上げて73円とした。レギュラー130円、ハイオク141円は据え置いた。

高機能プラスチックテーマに事業説明会

出光　出光興産は先ごろ、「自動車の安全・最新技術を支える出光の高機能プラスチック」をテーマに事業説明会を開催し、同社製品の「ザレック」（シンジオタクチックポリスチレン）と「タフロン」（ポリカーボネート）を紹介した。

「ザレック」は、同社が世界初の合成に成功した結晶性ポリスチレンで、優れた耐熱性や低比重・電波透過性などから自動車の電装品などで使われており、自動車向けの販売量は2011年以降、対前年伸長率で110％を記録している。

「タフロン」は優れた光学特性・透明性を有し、車のヘッドライトや街路灯のレンズなどに使用され、また世界的に広がりつつある「常時点灯ライト」（写真）への展開も行っており、販売量は14年以降、対前年伸長率で150％以上となっていく。



今後は国内外の自動車メーカーに広く展開させるだけではなく、自動車分野に加えて通信用途などの成長市場にも参入していく考えだ。

故・赤尾幸市氏偲びお別れの会

群馬・赤尾商事

【高崎】昨年11月29日逝去した赤尾幸市氏（元石油協会副会長、元群馬石商・協理事長、赤尾商事会長＝出光系）のお別れの会（写真）が24日に高崎市内で開かれ、全石連の森洋会長、群馬石商・協組合員、出光興産の月岡隆社長、中曽根弘文参議院議員など多数の関係者が故人をしのんだ。

同会では中曽根議員などがお別れの言葉で弔意を表し、同社の赤尾佳子社長が謝辞を述べた。

ＤＡＴＡコーナー

■石油先物市場・１／26

△値上げ、▲値下げ◇ストップ高、◆ストップ安、単位：¥／ＫＬ

東京商品取引所（京浜海上：１枚＝50ＫＬ）

16：30現在	前日比	限月	16：30現在	前日比
（前日出来高1,179枚）		ガソリン	（前日出来高-枚）	
60,640	▲170	③限月	61,000	0
60,780	▲70	④限月	60,900	0
61,000	▲60	⑤限月	60,000	0
61,230	▲40	⑥限月	60,500	0
61,240	▲60	⑦限月	60,000	0
61,250	-	⑧限月	60,000	-
（前日出来高637枚）		灯油	（前日出来高-枚）	
64,750	▲170	③限月	64,100	0
63,170	▲150	④限月	60,000	0
61,480	▲130	⑤限月	60,000	0
60,290	▲140	⑥限月	60,000	0
59,930	▲200	⑦限月	60,000	0
59,980	-	⑧限月	60,000	-
（前日出来高-枚）		軽油		
60,000	0	③限月		
60,000	0	④限月		
60,000	0	⑤限月		
60,000	0	⑥限月		
60,000	0	⑦限月		
60,000	-	⑧限月		

中京石油市場（伊勢湾油槽所：１枚＝20ＫＬ）

原油指標

			前日比
国内指標	$／B	68.00	(△1.02)
	¥／KL	47,383	(△829)
WTI	$／B	65.51	(▲0.10)
	¥／KL	45,648	(△46)

今週の指針

1月29日～2月4日　強運日＝3、2、4　吉方位＝西、東

運命アドバイザー　北 秀一

1月生 運気不安定で見通し暗い。あせらず冷静に行動せよ。金銭運弱い。

2月生 運気まずまずも苦労しよう。現状では軽率な行動禁物。愛情弱い。

3月生 好不調の波あり安定せず。冷静な行動を心がけよう。金運不安定。

4月生 情勢安定してチャンスある。堅実な行動して結果吉。愛情運普通。

5月生 運気に波があり安定しない。軽率な行動は慎もう。金運安定せず。

6月生 情勢不安定で落ち着かない。冷静な行動を心がけよ。愛情不安定。

7月生 運気に波があり安定しない。軽率な行動は慎もう。金運に波あり。

8月生 情勢まずまずで見通し明るい。冷静な行動を心がけよ。愛情普通。

9月生 運気まずまずで情勢も普通。あせらず冷静に行動せよ。金運安定。

10月生 情勢波あり安定しない。落ち着いて冷静に行動だ。愛情運不安定。

11月生 運気安定して見通し明るい。冷静な行動して結果吉。金銭運強い。

12月生 情勢が不安定で苦労しよう。堅実な行動を心がけよ。愛情運普通。

月生早見表

1月生＝1月5日～2月3日まで
2月生＝2月4日～3月4日まで
3月生＝3月5日～4月4日まで
4月生＝4月5日～5月4日まで
5月生＝5月5日～6月4日まで
6月生＝6月5日～7月6日まで
7月生＝7月7日～8月6日まで
8月生＝8月7日～9月6日まで
9月生＝9月7日～10月7日まで
10月生＝10月8日～11月6日まで
11月生＝11月7日～12月6日まで
12月生＝12月7日～1月4日まで

キュー太郎　浜坂高一朗

世界の三大ガソリン計量機メーカー
TATSUNO

魅力満載の「ぜんせきweb」です。
ぜひとも会員のご登録を!!

機関紙「ぜんせき」は組合員の皆様の立場に立った情報提供を心がけています。「ぜんせきweb」は、そうした機関紙「ぜんせき」の主旨を活かしながら、4ページ立て、週3回という新聞の発行形態にとらわれることなく、web上で随時情報を提供する速報版です。

◆速　報　性　元売の仕切価格情報や気になる市場動向など、速報性が重視されるニュースをリアルタイムでご提供しています。
◆情　報　量　紙面スペースに制限されず、写真、動画や資料・報告書・チラシなど大容量の情報を適宜掲載しています。
◆乙４ｅラーニング　石油業界向けのｗｅｂサイトでは初めてｅラーニングを導入。会員ならどなたでも「乙４模擬試験」を受験することができ、乙４資格の取得率アップにお役立ていただけます。

会員登録方法
インターネットを開き「ぜんせきｗｅｂ」で検索 → 「会員登録について」をクリック → オンラインで登録 → 必要事項入力 → 送信 → 全石連よりメール送信
または ＦＡＸで登録 → 必要事項記載 → ＦＡＸ → 全石連よりメール送信

＊機関紙「ぜんせき」をご購読いただいている組合員の皆様には、月額千円（税別）でご覧いただけます。お支払いは半年単位の前払いとなります。

関東

関東支局（千代田区永田町2-17-14 石油会館）03（3593）5757

一部系列量販SS 各地で安値散見

需給均衡無にする拡販姿勢

セルフSSのガソリン価格が140円台に入った関東地方だが、新たな課題が浮上している。PBSSの価格が上昇する中で、系列量販SSの安値が各地で散見され、系列安PB高を印象付ける格好になっている。地場業者からは「元売も調整を出さないというのに、なぜ系列SSが安売りできるのか」と不満を強めている。

採算販売に徹するSSは140円のガソリン価格を設定しているが…

地場系列業者のセルフSSで140円を超える価格が当たり前となる中、市場の底値となっているのが系列量販SSだ。現在も134円の価格が横行し、同じサインポールのSSでも6円以上の差が生じている。

採算販売へ懸命の努力を続ける業者からは「仕切り制度が変更されてから公平性のある市場と感じていたが、ここにきて極端な安値を掲示するのが同系列のSSとは情けない」と怒りを通り越して呆れている。

PB業者も現状には納得がいかない。「業転価格が上昇を続け、どれほどコストセーブしてもあの価格は設定できない。系列が安売りできるのは元売の支援があるからではないか」と事後調整への疑いを強めている。

系列量販SSの安値が目立つようになったのが年明け以降であることから、業者からは「年度末を控え量が激減していることへの焦りではないか」との声も上がり、実際、大手業者は「年間計画からすると販売量は激減している」と明かす。

こうした実態に地場業者は「どのSSも量が減ってきている。それを上回る採算性がいまこそ求められていることを自覚すべき」と警鐘を鳴らしている。

5団体共催で賀詞交歓会

全石連森会長 働き方改革推進を

神奈川

神奈川石商・協が先ごろに開催した5団体共催の賀詞交歓会では全石連の森洋会長、黒岩祐治県知事をはじめ国会議員、元売各社など数多くの来賓あいさつを行った。

■森全石連会長

特に深刻なのは人手不足と認識している。石油連盟と力を合わせ、業界の働き方改革を進めていきたい。我々は災害時の〝最後の砦〟という使命を認識し、SS経営の効率化とともに適正マージンを確保することでコストアップ分に対応して再投資ができ、持続可能な業界をつくる必要がある。元売と同様に好決算を目指し頑張りたい。

■小池健一JXTG関東第3支店長

元売は大きく3つのグループに集約された。ブランド統合などが始まるとさらに大きな変化が起こるだろう。

変化にあらがわずその先頭に立ち、社会のインフラとして健全な業界をつくりたい。

■黒岩県知事

阪神大震災から23年が経った。神奈川でもいつ災害が発生するか予断を許さない。そうした中、皆様が災害時協定を結んでくれたことは県民の命を守るうえで大変有難い。

今冬灯油 寒波続き活況

シーズン末期に大口急増

シーズン末期を迎えた関東地方の灯油市場だが、販売業者は例年と異なる市場の推移に嬉しい悲鳴を上げている。千葉県の地場業者は「今冬は年明け以降の大口需要が急速に増えている」とし、灯油市場が長く活況を呈すると予測する。

灯油の配達を続ける業者は「SS店頭よりも大口ユーザーの需要がここにきて伸びている。理由は寒波が続いていることだと思うが、ここまでだとオーダーに応えられない」と打ち明ける。店頭だけでも伸びている灯油需要が、大口でも確実に伸びているという。

悲鳴を上げる背景には、「年末から元売の態度が変わってきた。需給次第で枠を設けるような言い方をしてきた」と話し、需給全体にタイト感が出ていることが、今後に影響を与えかねないとみている。

さらに「冷え込みがここにきて続いてユーザーからの問い合わせが増えている。今冬は通常より長いシーズンになるはず」と予測し、今後の灯油市場の動向を注視する必要性を示唆している。

人手不足問題が深刻化

採用、物流、メンテナンス 高まる運営危機の声

関東地方のSSにとって人手不足が大きな問題になっている。大手販売業者は来年度の新入社員採用が想定を超えて不足する事態に陥り、これまで続けてきた地元高校・大学の卒業生枠から、全国規模で募集を続けるとともに、社員を通じ新卒者の募集を要請している。

販売業者は「今年度人材が確保できなければ、人手不足はさらに深刻になる」と危機感を募らせている。

関東1都10県の平均有効求人倍率は、厚生労働省発表の直近値で1・51倍。東京都の2・12倍、長野県の1・72倍、群馬県の1・61倍など、平均値を超える地域が1都4県確認され、年間を通じ高い倍率が続いている。

求人過多の状況にSSも影響を受けており、千葉県の地場業者は「親族でさえSSを辞めてほかの業種に転職している」と嘆く。

また、正社員だけでなくアルバイトも確保できないという状況が続き、埼玉県の業者も「フルサービスで人がいないというのは言い訳できない。アルバイトで良いからと思ってもそれもままならない」と明かしている。

来年度の新卒者の採用はさらに深刻な状況で、茨城県の大手企業の総務担当者は「今年と比べて、半分にも満たないほど採用が決まっていない。枠を広げて募集を続けている」という。

また、周辺業界でも物流関係、メンテナンス関係の人材不足が深刻になっているとの指摘もあり、「SS運営の危機的な状況が目前に迫っている」と話す業者もいる。

人手不足に悩む業者からは「もう業界全体で問題解決に取り組んでもらうしかない。国内外を問わず人材を確保できるよう環境整備してほしい」と訴えている。

大阪

近畿支局（大阪市北区南森町1-4-19 サウスホレストビル5階）06（6362）2917

業転格差縮小で安定感

PBも140円台へ 経営改善の好機に

元売各社の相次ぐ仕切り値上げにより、大阪のレギュラーガソリン市場は上昇を続け、ついにはセルフでも㍑140円台を掲示するSSが急増している。業転・系列格差縮小の影響でPBもほぼ同水準の価格帯を打ち出すところが多い。小康状態に見える市場だが、先行きの需要減少に対する不安もあり、価格競争が勃発する懸念は依然として残っている。そんな中、新事業による収益確保によって、生き残りを模索しようとする動きもみられ始めている。

セルフで140円台を掲示する府内のSS

石油情報センターが毎週発表する給油所小売価格調査（ガソリン）によると、㍑140円台になったのは11月27日以降だが、フルSSを中心に10月下旬ごろからその価格を掲示する動きがみられ、府内の特約店社長は「いまだとフルは150円以上の価格を打ち出しているところが多いのではないか」と指摘する。

一時期、大きな騒ぎとなっていたコストコ和泉店は22日時点で㍑129円を掲示しているが、周辺部で価格競争はあまり起きていないようだ。

販売店社長は「あの周辺はコストコだけでなく大きなショッピングセンターがあることから、休日は渋滞がひどく、交通規制までやっているほど。わざわざ給油するだけの人は少ないと思う」と推測する。

他府県では一部で競争が起きている地域もあるが、「PBも我々地場の系列との格差は昔ほどではなくなっている印象だ。いつまで続くかわからないが、この傾向はできるだけ長く続いてほしい。ただ、いまのうちに、新しい商売を探しておく必要もある」と、先行きに対する不安と対策の必要性を訴える販売業者も現れている。

堺市が『満タン』PR協力

堺市役所はこのほど、阪神・淡路大震災を機に内閣府が定めた「防災とボランティア週間」に合わせて、美原区役所などで実施した震災関係のパネル展示で、『満タン&灯油プラス1缶運動』のポスターを掲示し、訪れた市民に民間備蓄を呼びかけた。

昨年の12月22日に大阪石商（安井一男理事長）や大阪府石油政治連盟（綾田學会長）から要請を受けたのがきっかけ（既報）。

ほかには市内の全区役所で15日から約1ヵ月間、同運動のポスターを掲示するだけでなく、ホームページ上の「市長の動静」で、協力要請を受けたことを紹介している。これまでには、綾田会長の要請を受け、摂津市役所が市庁舎1階にポスターを掲示し、PRに協力した事例がある。同石商・油政連では今後も、運動の要請活動を積極的に行い、定着を図っていく。

堺市は『満タン運動』に協力している

2月27日に石油先物市場講演会

大阪・21世紀の会

大阪石商・協（安井一男理事長）の若手SS経営者や後継者らで構成される青年部組織・21世紀の会（細川将史会長）は講演会を開催する。

講師は東京商品取引所（TOCOM）から招き、原油先物市場の動向を中心に解説する。米国のシェールオイルや、中東の減産など、各国の思惑が入り乱れる複雑な国際情勢を踏まえ、将来の見通しなどについて触れる予定。

開催日は2月27日、ホテルモントレグラスミア大阪で17時から開始する。終了後には懇親会も行う予定。

問い合わせは同石商事務局（電話＝06－6362－2910）まで。

2月10日から「オートメッセ」

関西最大級の改造自動車のイベント『第22回大阪オートメッセ2018』が、2月10日～12日まで、インテックス大阪（大阪市住之江区）にて今年も開催される。

同イベントは1997年から毎年開催され、来場者数は常に20万人以上を動員しており、関西でも屈指の自動車イベント。今年はキャッチコピーに「ひろげる・つながる・クルマのワクワク」を掲げ、最新のスタイルをまとった改造自動車など総勢500台が会場を埋め尽くすほか、FM802によるライブ、子供向けイベントなども開催。カスタマイズの幅広い楽しみを提供するとともに、世代を問わず、自動車を改造する楽しみを感じさせるイベントとなっている。

入場料は当日が2700円、前売り券が2100円だが、中学以下は保護者同伴で生徒手帳提示により無料となる。

大阪石油4団体 賀詞交歓会来賓あいさつ

大阪石商・協（安井一男理事長）、大阪府石油健保組合（安部慶尚理事長）、大阪府油政連（綾田學会長）の石油4団体がこのほど大阪市内で開催した賀詞交歓会には、多数の来賓が出席した。主要な来賓のあいさつ要旨は次の通り。

大阪を元気にしよう

■佐藤章衆議院議員（自民党、大阪2区）

総選挙で皆さんの協力のおかげで自民党は大勝した。石油諸税は自動車を利用する人には大きな問題なので、しっかりやっていきたい。万博誘致に取り組んでいるが、市民の応援をお願いしたい。大阪の元気を取り戻したい。

精販一体で安定供給

■池田満JXTGエネ執行役員大阪第1支店長

石油業界は元売再編が進み、利益改善に向かっているようだが、新たな政策が必要になる。石油は需要なエネルギー源として位置付けられ、安定供給し続けることが社会的責任。安定収益の下で安定供給を果たしていく。経営環境は厳しい状況が続き、人材不足やEV台頭が進んでいるが、1次エネルギーの太宗は石油。精販一体となって社会的ニーズを果たしていきたい。

11月府経済は緩やかに拡大

大阪府

大阪府がこのほど発表した11月の大阪経済情勢によると、「大阪経済は、緩やかに拡大しつつある」と発表した。

需要面で個人消費は緩やかに増加している。コンビニ販売額は前年同期比3%増と57ヵ月連続で増加し、新車販売台数は3%減の1万7107台。車種別だと普通車は6%減、小型車は14%減だが、軽自動車は2%増。

投資は持ち直しの動きに一服感がみられ、公共工事請負金額は47%増の390億円。企業の倒産件数は2%増の96件で負債金額は99%減の58億円。

雇用は着実に改善し、有効求人倍率は1・68倍、新規求人倍率は2・73倍、所定外労働時間指数（10月）は上昇し、現金給与総額（5月）は1%増の28万3135円となった。

TMC TOMINAGA MFG CO

新発売

ALUNA MULTI
アルーナマルチ

http://www.kyoto-tmc.co.jp

“燃料供給システム”の明日に取組む

NEW 大型で見やすい高輝度LCD表示器

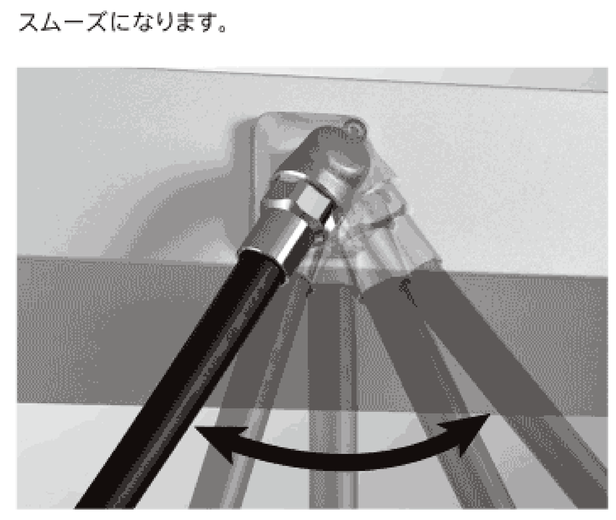
業界最上級モデルのVA方式高輝度大型LCD表示器を搭載。
ブラック素地に白文字を浮き上がらせ、鮮やかなコントラストと大型文字により昼夜を問わず、どの角度からでもハッキリと見やすい表示を実現しました。

▶給油シグナル
ノズルや給油の状態をお知らせする機能です。
ノズルを取る　ノズルマーク点灯
給油中　給油マーク点滅

▶流速インジケーター
給油中の流速を「4分割」にしたグラフで表示。
流速が一目でわかる安心マークです。

NEW スムーズな給油操作を実現できる スイングデリベリベンド

計量機とホースのジョイント部に「回転式のデリベリベンド」を装着。ホースの有効リーチが大幅にアップし、取り回しもスムーズになります。



安心の“ダブルチェック”水検知機能
AQUATECT® NEW

誤って油中に混入した水を、車両に給油してしまうトラブルを未然に防止。
計量機内部に、2つの高精度水検知センサーを装備し、水を検知すれば強制的に給油をストップします。

株式会社富永製作所 〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町88 営業本部 ☎(075)801-8139代表 FAX(075)801-1373
仙台営業所 ☎(022)287-9311 FAX(022)287-9312
東京支店 ☎(03)3484-5051 FAX(03)3484-3944
名古屋支店 ☎(052)414-1181 FAX(052)414-1180
関西支店 ☎(0774)41-3443 FAX(0774)41-3444
広島支店 ☎(082)283-2428 FAX(082)283-2606
高松支店 ☎(087)843-7130 FAX(087)843-9139
福岡支店 ☎(092)651-3168 FAX(092)651-3118
事業所・代理店／全国主要39都市

Webアンケート　ZENSEKI

1月テーマ　年末年始商戦総括

「ぜんせきweb」読者アンケート・1月テーマ「年末年始商戦総括」の結果によると、年末年始商戦におけるガソリン、油外、灯油の販売状況はいずれも、「大変良かった」（前年比5%以上の増加、以下同）「良かった」（前年比5%未満の増加、以下同）を合計すると、「大変悪かった」（前年比5%以上の減少、以下同）「悪かった」（前年比5%未満の減少、以下同）の合計を5~10%上回り、全般的に好調だったことがうかがえる。

年末年始商戦のうちガソリンについては、販売量、収益とも「前年並み」が40%、46%とともに最多となったが、「大変良かった」と「良かった」を合わせると販売量は7%、収益は12%、「大変悪かった」と「悪かった」の合計を上回り、販売量、収益ともまずまず好調だったSSが多かったことがわかる。

ガソリンは堅調維持
油外も洗車など中心に好調

油外全般については「天候の影響（好天）」が11%、「天候の影響（雪・雨）」が9%、「周辺SSの安売り」が8%、「ガソリン価格の高騰（あるいは下落）」が7%などとなり、決定的な要因は見られない。

一方で、そうした状況となった原因については回答がバラつき、最多は「ハイブリッド車・低燃費車増加」で13%、次いで「天候の影響（好天）」が11%、「大変良かった」と「良かった」を合わせると37%、「前年並み」が39.7%、「悪かった」と「大変悪かった」を合わせると32%、「大変悪かった」と「悪かった」を合わせると31%で、油外もガソリン同様、好調なSSが多かった。

油外で特に良かったのは「洗車・コーティング」が35%で最多、次いで「タイヤ」が21%と続き、それ以外はばらばらとなった。「レンタカー」が7%、「全般に満遍なく」が4%、「カーリース」が3%などと回答がバラけた。「特にない」も19%を占めた。

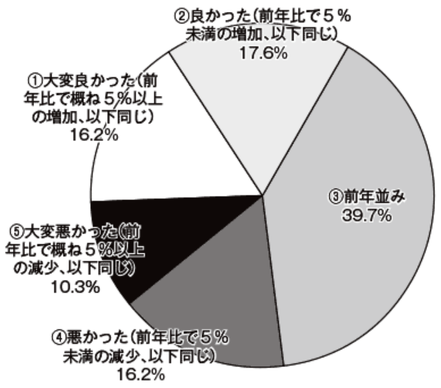
これに対して灯油は、販売量と収益とで結果に差が出た。販売量は、「大変良かった」と「良かった」を合わせると60%と半数を超え、「前年並み」が25%、「大変悪かった」と「悪かった」の合計が15%と、大きく販売量を伸ばしたSSが大勢を占めたことがわかった。

一方の収益は、「大変良かった」と「良かった」を合わせた37%に対して、「大変悪かった」と「悪かった」の合計も35%にとどまり、大きな差はなかった。「前年並み」は28%となり、量は伸びたもののマージンが確保できず、収益はさほど伸びなかったという結果となった。

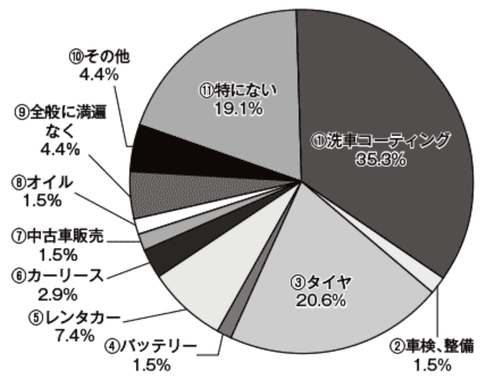
こうした結果となった原因については、「天候の影響（寒波）」が37%で断然トップで、販売量が伸びたことを明確に裏付けた。「ホームセンターや周辺SSの安売り」が16%で二番手となり収益の伸び悩みを裏付けた。「一般家庭における暖房器具の灯油離れ」は12%で三番手だった。

一方、12月20日時点でSSが購入もしくは売り込みがあったガソリン業転価格（1kl、消費税抜き）は、最高118・5円（119・0円）、最低112・5円（112・3円）、平均価格は115・1円（115・3円）、前月比で0・2円値下がりとなったが、業転、仕切とも小幅な値動きにとどまった。

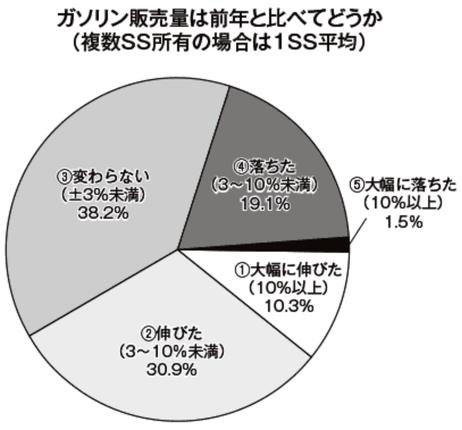
ガソリン販売量について



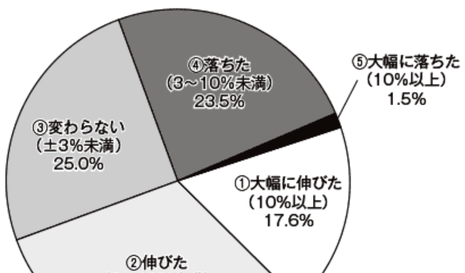
油外で特に良かったのは



ガソリン販売量は前年と比べてどうか
（複数SS所有の場合は1SS平均）



油外販売は前年と比べてどうか
（複数SS所有の場合は1SS平均）



12月業況

G、油外とも大幅改善
卸平均0.8円上昇118・4円

業況・卸価格アンケート結果によると、回答者の属性は、旧JX43%、出光10%、昭和シェル9%、コスモ12%、旧東燃ゼネラル15%、その他12%。2者50%、3者40%、その他10%だった。

12月のガソリン販売量は、前年比で「伸びた」31%（前月15%）、「大幅に伸びた」10%（5%）で合計で前月より一気に21ポイントも増加。「落ちた」19%（32%）、「大幅に落ちた」2%（8%）で、合計で一気に19ポイントも減少と、大幅改善した11月からさらに改善がみられた。

一方の油外は、「伸びた」32%（前月28%）、ポイント減少と、ガソリン「大幅に伸びた」18%（7%）で、合計で前月より一気に15ポイント大幅な改善をみせた。

卸価格・業転価格調査のうち、業転価格調査への回答数は卸価格調査への回答数の63%と、前月より5ポイント増加した。

12月1ヵ月平均のレギュラーガソリン卸価格（1kl、系列仕切り、消費税抜き）は、最高143・0円（前月136・0円）、最低140・0円（同）、平均価格は118・4円（117・6円）で、前月より0・8円値上がりとなった。

一方、12月20日時点でSSが購入もしくは売り込みがあったガソリン業転価格（1kl、消費税抜き）は、最高118・5円（119・0円）、最低112・5円（112・3円）、平均価格は115・1円（115・3円）、前月比で0・2円値下がりとなったが、業転、仕切とも小幅な値動きにとどまった。

入札概況　ZENSEKI

原油高騰背景に落札
期末に向け価格上昇基調

今期第2四半期（7~9月）後半から第3四半期（10~12月）までが記載された官報では、石油製品の入札結果はほぼ前年同期を1kl当たりで5円以上高い価格で落札されている。90円前後、重油で60円台中心の価格帯で応札する。これは原油価格が1バレル当たり50ドル前後から60ドル台にまで上昇した影響によるものと推測され、価格的には灯油で55円以上、軽油で10~12月までの官報掲載による石油製品落札結果では、前期第2四半期に比べ、全般的に上昇傾向がみられる。原油価格の高騰を反映し、期末に向かうほど落札価格は値上がりしている。油種別にみると、軽油の落札価格は価格差が大きく、重油は遠地を除きほぼ格差がみられない。シーズン期に入った灯油もほぼ一定の価格帯で落札される傾向がみられる。応札業者は全国に支店網を有する広域業者が各地で落札し、地場業者の落札は限られている。原油価格の上昇は続いていることから、今後も落札価格は上昇していくものとみられる。

中間3品が需要期に入り、各油種とも受注数量は増えているが、中でも重油は発注件数が第2四半期（7~9月）と比べて倍増。この結果、燃料転換が進んでいるといわれる中、官公需ではいまだに燃料油への依存度は高いことを示している。

落札業者は広域業者の落札は支店や本社で交互に落札している事例も多く、地場業者の落札は確実に減っている。また、石協、農協、漁協の落札も確認されている。一方で元売販売子会社の落札が極端に少なくなっているのが今回の特徴で、元売の直売化の流れが鈍化しているものとみられる。背景には元売各社が建値廃止し、事後調整などの量的インセンティブがなくなったこと、業転市場全体にタイト感が強いことなどから、極端な安値で応札できるだけの余力がなくなってきたこと挙げられる。

今後も需給の引き締まり、原油価格の高騰に伴い、仕切り価格は高値で推移するものとみられ、極端な落札価格が市場に影響することはなく、落札価格はさらに高値で決定する傾向が強くなることが予測される。

国立・行政機関落札結果概況（官報10月~12月掲載分抜粋）

※落札価格には消費税は含まない

発注者	数量(*kl)	場所	落札日	落札者	落札価格(円/kl)
【灯油】					
国立大学法人	64	富山大学	8月28日	竹中産業富山営業所	53.2
	112	富山大学	9月28日	鈴与商事名古屋支店	58.6
	134	富山大学	10月25日	丸一石油	63.5
	168	富山大学	11月27日	竹中産業富山営業所	68.9
国立研究開発法人	380	北海道農業研究センター	9月27日	札幌第一興産	61.9
国立病院機構	64	近畿中央胸部疾患センター	9月27日	総合エネルギー	51.5
	132	南九州病院	9月28日	鈴与商事	53.2
	120	大牟田病院	9月26日	鈴与商事名古屋支店	57.1
	112	兵庫中央病院	9月22日	兵庫県漁業協同組合連合会	56.1
	167	あわら病院	9月23日	鈴与商事	56.1
東日本高速道路	1,100	新潟支社	10月4日	中村石油	63.7
	297	秋田管理事務所	11月28日	山二	76.2
労働者健康安全機構	143	千葉労災病院	9月5日	共栄海運	51.6
	204	千葉労災病院	12月5日	共栄海運	66.5
【軽油】					
中部地方整備局	28	名古屋港	9月20日	伊勢湾石油	92.9
	19	名古屋港	10月20日	石田石油店	95.0
	7	名古屋港	11月20日	伊勢湾石油	98.8
	23	名古屋港	12月20日	石田石油店	98.8
第四管区海上保安庁	150	名古屋港	11月27日	石田石油店	98.8
	90	鳥羽港	11月27日	鳥羽石油	104.8
水産庁	280	北海道地区	9月27日	北海道エネルギー道南店	92.8
	195	山陰地区	9月27日	堀田石油	72.4
	230	京浜地区	9月27日	神奈川アポロイル	58.1
	75	瀬戸内地区	9月27日	兵庫県漁業協同組合連合会	72.9
	200	九州地区	9月27日	金子産業	59.4
	100	北海道地区	10月26日	北海道エネルギー道南店	96.0
	125	山陰地区	10月26日	堀田石油	74.5
	250	京浜地区	10月26日	カメイ東京支店	58.4
	100	瀬戸内地区	10月26日	郵船商事	76.1
	295	九州地区	10月26日	新出光九州支店	60.7
	170	山陰地区	11月28日	堀田石油	80.5
	700	京浜地区	11月28日	リーフエナジー	64.3
	67	瀬戸内地区	11月28日	兵庫県漁業協同組合連合会	81.2
	50	九州地区	11月28日	金子産業	67.0
	40	沖縄地区	11月28日	りゅうせき	72.5
【重油】					
国交省	390	北陸地方整備局	9月27日	新潟県石油協同組合	80.5
第一管区海上保安庁	1,070	函館港	9月7日	協和石油	82.8
	770	小樽港	9月7日	六光石油	111.8
	360	室蘭港	9月7日	栗林石油	75.1

発注者	数量(*kl)	場所	落札日	落札者	落札価格(円/kl)
【重油】					
第一管区海上保安庁	1,630	釧路港	9月7日	北日本石油釧路販売支店	80.5
	120	十勝港	9月7日	日勝シェル石油	80.8
	110	留萌港	9月7日	三協石油	65.3
	890	稚内港	9月7日	道北エア・ウォーター稚内サービスセンター	81
	110	紋別港	9月7日	北海道エネルギー道北支店紋別営業所	81.3
	90	網走港	9月7日	新谷商店	82.6
	120	根室港及び花咲港	9月7日	根室石油	82.6
	190	羅臼港	9月7日	羅臼石油	70.2
	100	根室港及び花咲港	12月8日	北海道エネルギー道東支店根室営業所	90.7
第三管区海上保安庁	428	銚子	9月27日	江戸石油	90.7
	728	下田	9月27日	丸吉水産商事	74.5
第四管区海上保安庁	320	尾鷲港	9月25日	伊藤石油	82.1
	120	鳥羽港	11月27日	柴山芳之助商店	84.8
第七管区海上保安庁	212	仙崎	9月22日	太陽石油	90.7
	493	長崎	9月22日	中央石油	78.3
	1,882	福岡	9月22日	金子産業福岡営業所	54.8
	1,431	関門	9月25日	岸鉱油	70.1
	203	佐世保	9月25日	金子産業	78.3
	112	対馬燃料タンク	9月27日	EFリテール九州	74.5
第九管区海上保安庁	1,100	新潟港	11月28日	北日本石油東京販売支店新潟営業所	87.5
水産庁	115	北海道地区	9月27日	北海道エネルギー道南店	69.1
	55	東北地区	9月27日	アベキ仙台営業所	55.1
	170	北陸地区	9月27日	和田商会	70.2
	370	山陰地区	9月27日	堀田石油	67.0
	90	京浜地区	9月27日	富士石油販売	56.9
	75	瀬戸内地区	9月27日	兵庫県漁業協同組合連合会	72.9
	50	山陽四国地区	9月27日	カメイ東京支店	59.4
	568	九州地区	9月27日	林兼石油	55.4
	75	沖縄地区	9月27日	りゅうせき	65.2
	95	北海道地区	10月26日	カメイ東京支店	70.0
	130	東北地区	10月26日	アミックス	58.8
	105	北陸地区	10月26日	和田商会	72.4
	288	山陰地区	10月26日	堀田石油	69.1
	637	九州地区	10月26日	林兼石油	59.9
	228	沖縄地区	10月26日	ミヤギ産業	69.1
	25	北海道地区	11月28日	カメイ東京支店	73.4
	100	東北地区	11月28日	アミックス	63.9
	196	京浜地区	11月28日	リーフエナジー海上支店	65.3
	65	山陽四国地区	11月28日	カメイ東京支店	68.0
	339	九州地区	11月28日	伊藤忠エネクス	64.2
	123	沖縄地区	11月28日	りゅうせき	72.2

最新 New Model Carwash MIYABI ドライブスルー洗車機 雅（みやび）

洗浄力UP! ランクUP!!

最新コーティングの仕上がりに満足し、
洗車ポイントカードでリピートを促す。
目指したのは洗車による生涯顧客の創造です。

洗浄力UP　汚れに強くボディに優しい洗浄

洗浄動作を刷新!
ブラシに最適な制御で
洗浄力がさらに向上!!

ブラシの優しさが確認されました
「サイフレックスブラシII」は第三者公的機関にて洗浄試験を行い、その優しさが確認されました。

ランクUP　バディカードシステム搭載!　業界初

洗車でポイントが貯まる!
新洗車会員システム!!

ゴールド会員価格
規定のポイントが貯まるとゴールド会員にランクアップ
シルバー会員価格
規定のポイントが貯まるとシルバー会員にランクアップ
ブロンズ会員価格

洗車生涯顧客を創造する新会員システム!!

※バディカードシステムはオプションです。

Beautuu ビユーテー株式会社　機械遺産認定の信頼と洗車機累計販売台数世界NO.1の実績
SINCE 1965　本社 名古屋市港区木場町2番地　TEL 052-692-2101（大代表）
ビユーテー　検索　http://www.beauty.gr.jp

ISO14001　ビユーテー本社事業所は環境管理に関する国際標準規格ISO14001の認証を取得しています。

■Network of the Beauty
北海道支店　仙台支店　上信越支店　埼玉支店　東京支店　千葉支店
東海支店　北陸支店　大阪支店　広島支店　福岡支店　南九州支店